

JR横浜線成瀬駅の南側からつくし野、南町田に至るまで広がっている南地区。その南地区協議会で中心となって活動している内田絢子さん、町野眞里子さん、須藤晏男さんに話を聞いた。

**内田:**私は子どもの野球のリトルリーグの役員になったことがきっかけで、PTA活動や町田市青少年健全育成地区委員会(以下、青少健)の活動に関わるようになりました。青少健の委員として、見守り活動や子ども向けのイベントを開催しています。何よりも子どもたちが学校内外で何ごともなく無事に過ごせるようにしたい、その一心で活動しています。

**町野:**出版の仕事に携わり、地域に疎かった私が自治会長を務めたのを契機に地域に目が向き、社会福祉協議会の「ふれあいサロン」を2つ立ち上げました。これは地域の皆さんの交流の場で、このご縁から民生委員を委嘱されました。以来、関係機関と連携しながら地域

の方々の相談・支援をしています。

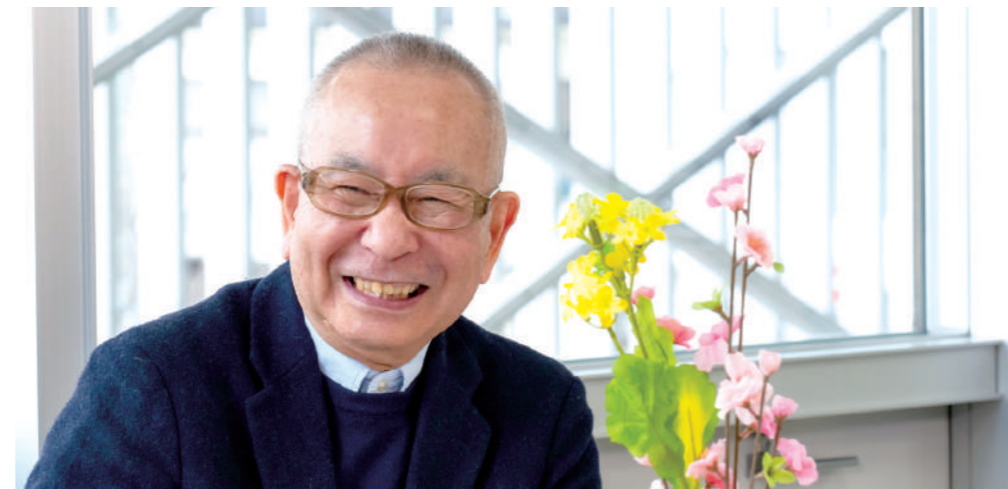
**須藤:**私はマーケティング関係の会社での仕事一筋で、地域活動には一切かわっていませんでした。そんな中、前任の町内会長から頼まれて、会長職をお引き受けしたのが始まりです。以来、町内会の会員が自分ゴトとして運営に関わることを目標に、お花見やウォーキングなどのイベントを開催。これを住民同士の交流のきっかけとし、顔が見える関係を作りたいと考えています。

**地区協議会として印象に残っている出来事は?**

**内田:**登下校時の地域の一斉見守り活動がありますね。青少健が行っていたも



南地区協議会で活動する3人。左から町野さん、須藤さん、内田さん。



のを民生委員や町田警察署、学校の先生の協力を得て、9月の交通安全週間に南地区全域で実施しました。見守り活動用の大きな旗を作り、各小学校の通学路には警察官に立ってもらいました。青少健でのつながりがあったからこそ、警察や学校にも協力を頼めたのだと思います。立っている警察官を見て、車がスピードを緩めて走るようになり、地域全体で安全な環境になったのが良かったですね。

**町野:**南地区の福祉団体が一堂に会し、各団体の紹介や体験会を行った福祉フェアは、非常に反響が大きかったです。子ども分野から高齢者分野まで、福祉関係の人が顔見知りになれば連携が

地区協議会の活動につながっていったと思います。

**活動を通して思うこと、今後の展望は?**

**須藤:**理想は、地域で意見が合わない人がいてケンカしたとしても、最終的には家族のように仲良くできればいいなと思います。「こうなったらいいな」という思いを折に触れて伝え、共感してくれる人が増えたらいい。みんなが自分ゴトとして関わられるような地域にしたいです。

**町野:**新たな事業の立ち上げと運営の仕組み作りを行い、活動を広げていくことが大きなやりがいになりました。皆さんのためになれたときに苦勞が喜びに

変わります。かつて町田は「福祉のまち」と言われていたので、それをこの地域で実現したいです。

**内田:**地域活動って誰かの役に立つというものかもしれないですが、実は自分自身の新たな学びのきっかけにもなっているんです。それがうれしくて、自分がやりたいから活動しているというのもありますね。これからもいろいろな活動してみたいです。

**地域について真摯に語る3人の会話に、地区協議会の姿を見た気がした。南地区協議会の活動はこれからも続いていく。**

